

平成22年度高崎市歴史民俗資料館企画展示Ⅰ 高崎と街道シリーズ第2弾

# 三国街道と宿場



三国峠御阪三社神社より上州側をのぞむ

御阪三社神社は越後の弥彦・上州の赤城・信州の諏訪の三神を祀る。境内の石灯籠（常夜灯）は慶応2年(1866)に建てられたもの。上州側の山並みに見える白い筋は街道の残雪で、永井宿に向かっている。

平成22年6月8日(火)～7月19日(祝)

高崎市歴史民俗資料館

## ごあいさつ

高崎市は平成18年に倉渕村・箕郷町・群馬町・新町・榛名町と合併し、同21年には吉井町が加わり、人口37万人を超え、新たに中核市を目指す都市として、スタートしました。

高崎は古くから交通の要衝として栄えた場所で、信濃国(長野県)や越後国(新潟県)、武蔵国(埼玉県)との交流が盛んでした。中世には鎌倉街道が通る「和田宿」が栄え、近世には中山道や諸街道と結ばれ、倉賀野河岸の水運も合わせて高崎城下は人と物で賑わいました。中でも三国街道は、高崎を起点として金古宿から渋川宿へと北上し、三国峠を越えて越後・日本海に抜ける重要な路線でした。

歴史民俗資料館では平成18年度の高崎と街道シリーズ第1弾「中山道と宿場」に続いて「三国街道と宿場」を開催します。特に今回は中世・近世・幕末の三つに分け、それぞれの時代に高崎は三国街道とどう向き合い、関係したのかを紹介します。市民の皆様に郷土への理解を一層深めて頂く機会となれば幸いです。

開催にあたりまして、御所蔵者の方々、ならびに近藤義雄氏をはじめとする御教示いただいた諸先生方、また各種御協力賜りました関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成22年6月吉日

高崎市歴史民俗資料館

# 1. 上杉謙信がやってきた

## (1) 中世の道

中世の高崎には二つの幹線道路がありました。一つ目の東山道<sup>とうさんどう</sup>は、律令制の古代の官道で、碓氷・入山峠から坂本駅～野後駅<sup>のじり</sup>～板鼻～高崎北西部～上野国府(前橋市元総社町)を結びました。二つ目の鎌倉道(鎌倉街道)は3つのコースがあり、①観音山丘陵の烏川左岸、②上野国府～萩原(市内萩原町)～安達氏館(市内八幡原町)～角淵(佐波郡玉村町)～武蔵国、③長野郷～井野川沿岸～玉村が考えられています。一方、旅は僧や商人など一部の人々の生業<sup>なりわい</sup>で、庶民の娯楽ではありませんでした。

## (2) 和田宿と和田城

中世には高崎とその周辺の街道沿いに「宿」が形成されていました。南北朝期に栄えた山名宿(市内木部町付近)、山内上杉氏の守護所<sup>やまのうちうえすぎ</sup>が置かれた板鼻宿(安中市板鼻町)、そして和田城下の和田宿<sup>しゆく</sup>などです。

和田氏は鎌倉幕府政所別当<sup>まんどころべっとう</sup>の和田義盛<sup>よしもり</sup>を祖とし、和田城は現在の高松町付近にあったと考えられていますが、いずれもよくわかっていません。しかし高崎市域には和田氏ゆかりの寺社や、伝承が多く残されています。



高崎市箕郷町和田山



熊野神社(箕郷町和田山)

和田合戦(建保合戦)の後逃れたという

紀州熊野より和田氏が勧請したという

戦国時代には城主和田信輝<sup>のぶてる</sup>とその子業繁<sup>なりしげ</sup>を中心に下之城や倉賀野・玉村にも領地を得て、箕輪衆<sup>みのわしゅう</sup>(西毛の有力な軍団)の盟主長野業政<sup>ながのなりまさ</sup>と姻戚関係を結んでいました。一方、和田宿は金井宿<sup>かない</sup>・馬上宿<sup>ばじょう</sup>から構成され、鎌倉道を往来する人や物の重要な商いの場所となりました。そんな中、天文21年(1552)金

さな み たけ  
 鑽御嶽城（埼玉県児玉郡神川町）の落城と、平井城（藤岡市西平井）からの<sup>かん</sup>関  
 とうかんれいうえすぎのりまさ  
 東管領上杉憲政の退去により、南から小田原北条氏が侵攻してきたのです。

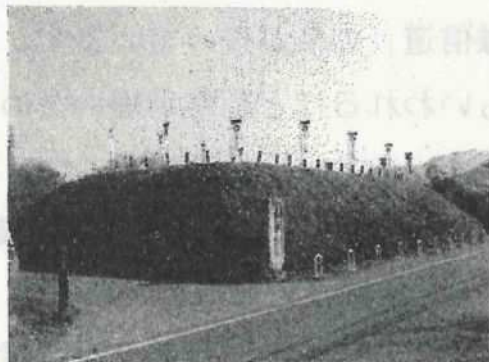
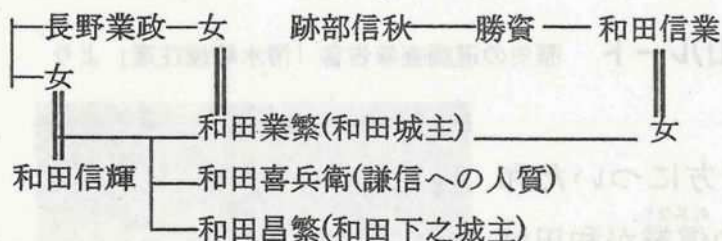
### （３）上杉謙信と和田城の攻防

上野国全域が北条氏の勢力下に入りつつあった永禄3年(1560)上杉憲政と  
 なが お かげとら  
 長尾景虎が越後勢とともに三国峠から<sup>えつざん</sup>越山してきました。景虎は厩橋城（前  
 橋市）を拠点とし、関東のほとんどの武将が参陣する中、和田氏も箕輪衆の  
 一員として参加しました。那波（伊勢崎市）で越年した景虎は更に南下して、  
 3月には北条氏康の本拠地の小田原城を包囲します。しかしその後帰国し、  
 たけ だ しんげん  
 8月には武田信玄と川中島で戦っています。その頃和田氏はどうしていたで  
 しょうか。

#### 平井城（藤岡市西平井）

山内上杉氏の上野国支配の拠点であった

#### 《和田氏系図》



川中島決戦の2ヶ月前の6月21日、長野業政が亡くなります<sup>（業政公木像  
背銘より）</sup>。また和田城の烏川対岸地域がほとんど武田氏の勢力下となります。生き残りを  
 かけて和田氏は箕輪衆から離脱し、永禄5年には武田方に転じたようです。  
 これに対し上杉輝虎<sup>（長尾景虎→上杉  
政虎より改名）</sup>は、永禄6年4月と12月に和田城を攻撃しま  
 す。しかし周到に準備していた信玄は、城を堅固にしていました。永禄7年  
 3月の輝虎の攻撃は上州衆も参加した大規模なものでしたが、輝虎が帰国  
 すると翌月には逆に倉賀野城を武田勢に落とされてしまいます。永禄8年5  
 月和田喜兵衛<sup>（1）</sup>事件のあった攻撃や、7月末から8月にかけての上杉軍1万3  
 千という最大規模の攻撃にも和田城は耐え抜きました。城主和田業繁と横田  
 十郎兵衛<sup>（武田氏家臣）</sup>は鉄砲で籠城したといひます。和田城は武田軍によ  
 って難攻不落の城となっていたのです。しかし元亀4年(1573)信玄が西上戦

#### (4) 謙信の道

## 謙信の越山ルート 歴史の道調査報告書「清水峠越往還」より

### (5) その後の和田氏と和田宿

天正3年(1575)長篠合戦で武田方について和田業繁が負傷して亡くなると、子の<sup>のぶなり</sup>信業が和田城主を継ぎます(下之城主は叔父の<sup>まさしげ</sup>昌繁)。同10年の神流川合戦を経て北条方となった和田氏は、同18年の秀吉の小田原攻めでは小田原城に籠城します。しかし戦いが膠着状態に陥ると徳川氏に内通して脱出に成功しました。その後信業は

和田城並びに興禪寺境内古絵図（興禪寺蔵）

和田城や和田宿、鎌倉道の様子がわかる



3

## 2. 大名行列も通った道

三国街道概略図「群馬町誌」より

## （２）大名行列も通った道

越後の諸大名や佐渡・新潟奉行は、北陸との距離が短い三国街道を利用し

4

ました（積雪のない5～10月）。一方佐渡の御用金は高崎城下本町の御金蔵に保管したものの、輸送には北国街道を利用したようです。

宿場の近隣には助郷が置かれてましたが、江戸後期に中山道の交通量が増えると、金古宿は高崎<sup>(4)</sup>宿や板鼻宿に人足をとられ、負担が増大しました。また宿は旗本の本多・松田・萩原氏の三つの領地に分かれ、宿内の様々な問題の解決にも時間がかかったようです。

・三国街道上野国通行大名（歴史の道調査報告書 三国街道より）

|       |      |       |                   |         |     |
|-------|------|-------|-------------------|---------|-----|
| ①新発田藩 | 溝口直政 | 10万石  | ⑦黒川藩              | 柳沢光邦    | 1万石 |
| ②長岡藩  | 牧野忠穀 | 7万4千石 | ⑧三日市藩             | 松平徳忠    | 1万石 |
| ③村上藩  | 内藤信美 | 5万9千石 | ⑨樵谷藩              | 原 之美    | 1万石 |
| ④村松藩  | 堀 直弘 | 3万石   | ⑩佐渡奉行             | 慶長6年以来  |     |
| ⑤与板藩  | 井伊直安 | 2万石   | ⑪新潟奉行             | 天保14年以降 |     |
| ⑥三根山藩 | 牧野忠泰 | 1石1千石 | そのほか新潟港監督の関東取締出役等 |         |     |

・高崎宿と金古宿 助郷村一覧

**高崎宿：定助郷村：**石原村・乗附村・高関村・江木村・岩押村・貝沢村・浜尻村・飯塚村・上並榎村・下並榎村・筑縄村・下小塙村・豊岡村（豊岡は烏川川端より板鼻まで）、**加助郷村：**上大類村・矢島村・西横手村・井野村・中尾村・元嶋名村・正観寺村・小八木村・新保田中村・江田村・稲荷新田村・大友村・元総社村・三ッ寺村・棟高村・保渡田村・下芝村（正徳2年30ヶ村、なお元禄15年には鳥羽村・古市村・小相木村・内藤分村・稲荷台村・大渡村等を加える場合がある）

**金古宿：定助郷村：**新井村・広馬場村・西国分村・東国分村・引間村・後疋間村・中里村・柏木沢村・三ッ寺村・棟高村、**大助郷村：**野良犬村・前原村・足門村・冷水村・福島村（享保10年以降定助郷へ）、天明2年（1782）以後、三ッ寺村・棟高村・稲荷台村・保渡田村（中部）が高崎宿助郷へ、文化12年（1815）以後、広馬場村・新井村・後疋間村・引間村・東国分村・西国分村が高崎宿当分助郷となり、この後も変動が激しい。

※定助郷とは常設の助郷で、加助郷とは臨時の助郷のこと。なお三国街道の宿場は全て中山道のように「助郷」ではなく「助合」と表記する。

（3）人や物の往来

三国街道は武家の公用道のほか商荷物の輸送路でもありました。越後からは米・酒・<sup>ちぢみ</sup>縮・鉛・馬が、幕末には生糸が前橋・伊勢崎を経て江戸・横浜に運ばれました。人の往来も盛んで、特に越後側からは大工・<sup>こびき</sup>木挽・<sup>とうじ</sup>杜氏の職

（4）高崎宿では文久2年（1862）に皇女和宮下向の負担を原因とした「御伝馬騒動」も起こっている。

人、田植・養蚕の日雇い稼ぎ、草津温泉の湯治客<sup>とうじきやく</sup>が行き来しました。また佐渡送りの罪人も通りました。高崎藩では延宝9年(1681)から杢ヶ橋関所<sup>もくがばし</sup>(渋川市)を管理し、旅人や荷物の改めを行ないました。<sup>(5)</sup>

・高崎宿データ (『元禄16年高崎宿絵図』より作成)

高崎藩領。宿高1234石。

宿場町は新町・本町・田町から構成された。(約2.4<sup>キロ</sup>)

宿内往還25町29間余(その内、町並みは西南へ22町11間)

道幅4～5間。江戸から26里31町40間。

問屋は本町・田町・新町の3町で交替した。(本町1～14日、田町15～22日、新町23～晦日) 主な問屋は梶山与三右衛門家、角田八左衛門家、矢島家。

本陣・脇本陣無し(『町方式』では「連尺町御使者取次所」が本陣であった)。旅籠43軒。

天保14年(1843)人口3235人(男1735人・女1500人)、837軒。

(中山道上野七ヶ宿で人口が一番多かった)

宿の背後には高崎の惣町があり、商人や職人が多かった。

・金古宿データ (『群馬町誌』ほかより作成)

高崎藩主安藤対馬守支配→旗本本多氏・松田氏・萩原氏の相給。宿高433石。

宿場町は上宿・中宿・下宿から構成された。(約2.1<sup>キロ</sup>)

宿内往還1178間(その内、上の木戸から下の木戸までは西南1282間)

道幅2間(約3.6m)以上。高崎へ2里半・渋川へ3里10町。

問屋は旗本領ごとに1軒ずつで、上給は神保家・中給は松岡家・下給は羽鳥家で、交代で問屋を務めた(神保家は幕末に領主松岡氏より郷代官に任命された)。

本陣は四ツ家の今城武右衛門、脇本陣は四ツ家の福田屋

世帯：文政10年(1827) 本多氏領33軒・萩原氏領46軒・松田氏領92軒

人口：文政12年(1829)金古宿全体で447人

金古宿は三国街道の宿場であったが、行政上は農村であった。

### 3. 幕末の動乱 三国戦争

#### (1)「小栗討伐」と三国峠出陣

風雲急を告げる幕末、三国峠は幕末維新の重要な舞台となりました。慶応4年(1868)閏4月6日、東山道総督府<sup>とうさんどうそうとくふ</sup>の命による高崎・安中・吉井三藩の小

(5)なお上越国境の最短距離の清水峠を通る「清水峠越道」は江戸幕府によって湯檜曾に口留番所が置かれ閉鎖された。近在の村人の用事しか通行が許されなかった。

栗上野介忠順主従の斬首がありました。数日後、上州諸藩に沼田出兵の命令が下ります。三国峠<sup>はんにゃつか</sup>近くの般若塚<sup>まのげんのすけ</sup>に会津藩小出島町奉行の町野源之助率いる会津藩兵が砲台を築いていたのです。

この中には小栗家臣の佐藤銀十郎・佐藤龍吉・塚越富吉・塚越源忠等もいました。彼等は小栗夫人らの護衛から離れて会津藩に合流していたのです。というのも諸藩連合軍（高崎・吉井・沼田・安中・七日市・伊勢崎・前橋・佐野藩）を率いるのが、小栗公に手を下した上野巡察副使<sup>こうすけじゅんさつふくし</sup>の原保太郎と豊永貫一郎であったからです。

同月の22日～23日、会津側は町野久吉らが、永井宿に本陣を置いた連合軍は牧野再龍<sup>まきのさいりゅう</sup>による偵察合戦がありました。翌24日朝、連合軍

は豊永率いる本隊（高崎・佐野・沼田・前橋藩）が三国街道を、原の隊（吉井・佐野藩）は挟み撃ちのため法師温泉へ向います。ここにいよいよ三国戦争が勃発するのです。

## （2）般若塚攻防戦

霧が深かったこの日、街道には会津兵によって多くの障害物が置かれ、進軍は困難を極めました。戦闘が始まると、町野久吉のほか、高崎藩士の深田竹次郎、吉井藩足軽銃隊の吉田善吉<sup>(8)</sup>など双方に多くの戦死者が出ます。やがて会津藩は後退し、陣を敷いた三国権現などに火をかけ撤退しました。連合軍は岩村精一郎<sup>いわむらせいいちろう</sup>（高俊<sup>たかし</sup>）率いる山道軍の六日町まで進軍します。そこで薩摩藩本陣に接触し撤収の命令を受け、再び三国峠を越えて5月1日には沼田城下に帰陣したのです。

(6) そのほか前橋藩を脱藩した斎藤壬生三郎・屋代由平・真砂野恭平やフランス伝習嚮導役の上野幸兵なども町野の元に合流した。(7) 元は箕輪龍門寺住職で、上野巡察使大音龍太郎（初代岩鼻県知事）の参謀となっていた。元々彦根藩士だった大音が上州に来た際に龍門寺に寄宿していた。(8) 善吉は藩士ではなく農兵であった。高崎藩でも農兵の部隊「強心隊」が沼田出兵に参加している。



### (3) 戸倉戦争から会津戦争へ

帰陣後すぐに、今度は会津街道への出動命令が、原と豊永に下されました。戸倉関所近くの大円寺に本陣を置いた連合軍（高崎・前橋・伊勢崎・吉井・足利）1500名は、5月21日、国境を越えてきた会津藩兵や大鳥圭介おおとりけいすけの幕府歩兵隊、米沢藩士の雲井竜雄くもいたつおの部隊、衝鋒隊等と交戦状態となりました。今度は連合軍も敗れましたが、会津側も撤退します。やがて三国峠など上越国境は平穏になっていきました。現在では残された墓碑が、静かに往時を物語っています。



大般若塚



吉井善吉の墓



町野久吉の墓

(9) なお清水峠は幕末にロシアの南下で新潟港が重要視され、維新後に馬車鉄道を通す新道が明治18年(1885)に開通するが、まもなく崩落で廃道状態になっている。

平成22年度企画展Ⅰ『三国街道と宿場』 展示資料目録

| NO | 資料名               | 年代          | 数量 | 所蔵                |
|----|-------------------|-------------|----|-------------------|
| 1  | 間部氏当代高崎絵図(土屋喜英氏写) |             | 1  | 本館                |
| 2  | 内耳鍋(高崎城三ノ丸遺跡出土遺物) | 中世          | 3  | 高崎市教育委員会          |
| 3  | 花生(高崎城三ノ丸遺跡出土遺物)  | 中世          | 1  | 高崎市教育委員会          |
| 4  | 青磁碗(高崎城三ノ丸遺跡出土遺物) | 中世          | 1  | 高崎市教育委員会          |
| 5  | 甕(高崎城三ノ丸遺跡出土遺物)   | 中世          | 5  | 高崎市教育委員会          |
| 6  | 上杉氏幟              |             | 1  | 関東管領平井城址保存会       |
| 7  | 和田氏幟              |             | 2  | 城南地区鎌倉街道武者行列実行委員会 |
| 8  | 和田氏鎧一式            |             | 1領 | 城南地区鎌倉街道武者行列実行委員会 |
| 9  | 脇差と懐剣             |             | 1式 | 黛春男氏              |
| 10 | 武田氏幟              |             | 1  | 箕輪城まつり実行委員会       |
| 11 | 蓑                 |             | 1  | 本館                |
| 12 | 笠                 |             | 1  | 本館                |
| 13 | 雪靴(爪掛と深沓)         |             | 2  | 本館                |
| 14 | かんじき              |             | 1  | あかりの資料館           |
| 15 | 草鞋                |             | 1  | あかりの資料館           |
| 16 | 権門駕籠              | 江戸時代        | 1  | 本館                |
| 17 | 「諸業高名録」版木         | 天保14年(1843) | 16 | 天田彰義氏             |
| 18 | 引札「諸病ねつさまし」       |             | 2  | 天田彰義氏             |
| 19 | 版木「紅雪」            |             | 1  | 天田彰義氏             |
| 20 | 商札「紅雪」            |             | 1  | 天田彰義氏             |
| 21 | 商札「痢病丸」           |             | 1  | 天田彰義氏             |
| 22 | 上野国全図／青木周溪筆       | 文政4年(1821)  | 1  | 天田彰義氏             |
| 23 | 日時計               | 江戸時代        | 1  | 原田四郎氏             |
| 24 | 懐中日時計             | 江戸～明治初期     | 2  | 原田四郎氏             |
| 25 | 小田原提灯             | 江戸～明治初期     | 2  | 原田四郎氏             |
| 26 | 方位磁針              | 江戸～明治初期     | 3  | 原田四郎氏             |
| 27 | じんぎり              | 江戸時代        | 1  | 小林文雄氏             |
| 28 | 早道                | 江戸時代        | 1  | あかりの資料館           |
| 29 | 重箱(小栗上野介夫人道子ゆかり)  | 幕末          | 1  | 東善寺               |
| 30 | 歩兵銃(小栗歩兵營田三左衛門使用) | 幕末          | 1  | 東善寺               |
| 31 | 御用書上控帳            | 慶応4年(1868)  | 1  | 梅山功氏              |
| 32 | 小栗上野介鎮圧に対する感状     | 慶応4年(1868)  | 1  | 高崎市吉井郷土資料館        |
| 33 | 吉井藩に対する戸倉への出兵命令   | 慶応4年(1868)  | 1  | 高崎市吉井郷土資料館        |

総点数61点

なお展示期間中資料の入れ替えをします。

この企画展を開催にあたり、関係諸機関、並びに個人の方々に、ご指導・ご協力を頂きました。  
ここに御芳名を記し、御礼申し上げます。

協力機関・個人（順不同、敬称略）

あかりの資料館 高崎市城南地区鎌倉街道武者行列実行委員会 箕輪城まつり実行委員会  
関東管領平井城址保存会 読史会

みやま文庫 群馬県立文書館 高崎市役所広報広聴課 高崎市立図書館

高崎市城南公民館 高崎市北部公民館 高崎市六郷長寿センター 高崎市倉渕支所  
高崎市群馬支所

高崎市吉井郷土資料館 高崎市榛名歴史民俗資料館 かみつけの里博物館

愛宕神社（南町）

東善寺 慈願寺 興禅寺 徳昌寺（下之城町） 蓮華院 常仙寺（金古町）

近藤義雄 南雲栄治

天田彰義 梅山功 村上泰賢 指出朋一 原田四郎 小林文雄 善如寺修 三芳太三  
今成清 黛春男 酒井敏 内田晴夫 矢島正志 大熊啓文 田部井康修 藤井茂樹  
関恒雄

久保田順一 岡田昭二 中嶋宏 井田紀東司 志村隆



和田氏累代の墓（徳昌寺、下之城町）と和田信業木像（慈願寺蔵）



雪の中、永井宿より三国峠を目指す

平成22年度企画展 I

「三国峠と宿場」

平成22年6月8日(火)～7月19日(祝)

企画 高崎市歴史民俗資料館

〒370-0027 群馬県高崎市上滝町 1058

Tel/Fax 027(352)1261

E-mail: rekimin@city.takasaki.gunma.jp

URL: <http://www.city.takasaki.gunma.jp/>